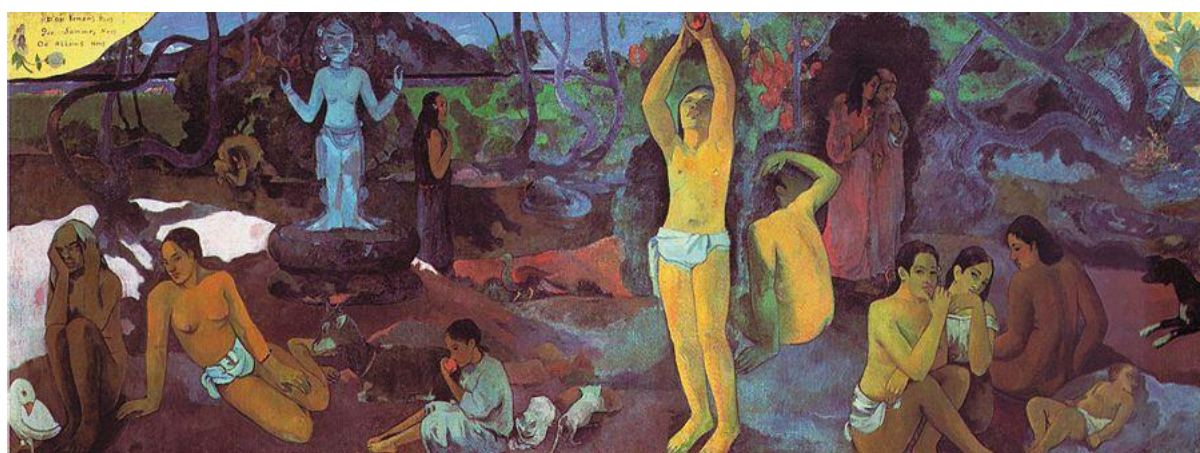


宗教学研究室紀要

THE ANNUAL REPORT ON PHILOSOPHY OF RELIGION



2016 vol.13

京都大学 文学研究科 宗教学専修 編

オンライン刊行物 http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/religion/rel-top_page/

<公募論文>

キリストの現象について

——ミシェル・アンリとジャン＝リュック・マリオン

伊原木大祐 (3)

レヴィナス後期思想における「より良いもの」について

——エルンスト・ブロッホを起点として

松葉類 (29)

ベルクソン『創造的進化』の宇宙論的時間について

吉野齊志 (43)

田辺元の宗教哲学における無即有・有即無の諸相

浦井聡 (59)

裂開する唯心論—ラヴェッソンとの比較からみたベルクソン

山内翔太 (84)

<研究ノート>

ショーペンハウアー『意志と表象としての世界』における単なる表象の前史 — それ自身無関心に、単に知覚される感覚の発見

鳥越覚生 (107)

編集後記

(123)

——宗教学研究室紀要編集委員——

氣多雅子	京都大学大学院文学研究科	教授
杉村靖彦	京都大学大学院文学研究科	准教授
岩田文昭	大阪教育大学社会科教育講座	教授
秋富克哉	京都工芸繊維大学基盤科学系	教授
美濃部仁	明治大学国際日本学研究科	教授
安藤恵崇	高知大学人文社会科学部	教授
関根小織	青山学院大学総合文化政策学部	准教授
長坂真澄	群馬県立女子大学文学部	准教授

——第13号執筆者紹介——

伊原木大祐	北九州市立大学基盤教育センター	准教授
松葉類	京都大学大学院文学研究科	博士課程
吉野齊志	京都大学大学院文学研究科	博士課程
浦井聡	京都大学大学院文学研究科	博士課程
山内翔太	京都大学大学院文学研究科	博士課程
鳥越覚生	京都大学大学院文学研究科	博士課程

**** 編集後記 ****

今年度の研究室紀要におきましては、計五本の公募論文、一本の研究ノートを掲載する運びと相成りました。扱われた思想家や問題は論稿毎に精彩に富み、研究室関係者の活発な活動の現況を御伝え出来たかと思考する次第であります。査読を担当して頂きました先生方には、この場を借りて衷心より厚く御礼申し上げます。

私自身こうした校訂・編集に携わるのは初めてで、実力不足から来る艱難辛苦も多くございました。しかしそれだけに作業に取り組む中で勉強させて頂いたことも数多く、顧みれば改めて身の引き締まる思いが致します。何よりこうした形で今号を広く江湖に問うことが叶い、甚だ欣快に堪えぬ次第であります。(山内翔太記)

Articles

Sur le phénomène du Christ :

Michel Henry et Jean-Luc Marion

Daisuke IBARAGI 3

Le « mieux » dans les dernières pensées de Levinas :

à partir de Ernst Bloch

Rui MATSUBA 29

Sur le temps cosmologique dans *L'Évolution créatrice* de Bergson

Tadashi YOSHINO 43

The varieties of nothingness-qua-being and being-qua-nothingness in Hajime Tanabe's philosophy of religion

Satoshi URAI 59

Le spiritualisme se déchirant. Bergson par rapport à Ravaisson

Shota YAMAUCHI 84

Research note

Die Vorgeschichte der bloßen Vorstellung bei Schopenhauers *Welt als Wille und Vorstellung* .

— Die Entdeckung der an sich gleichgültigen, bloß wahrgenommenen Empfindungen.

Kakusei TORIGOE 107